

令和4年度第1回（第53回）旭川市男女共同参画審議会 会議の記録

日時	令和4年7月27日（水）18時30分～19時50分
場所	旭川市6条通9丁目 旭川市総合庁舎議会棟2階 第2委員会室
出席者	委員11名 青山委員，浅野委員，塩尻委員，嶋崎委員，谷奥委員，中島委員，中村委員，松田委員，宮崎委員，山田委員，米沢委員（五十音順） 事務局3名 坂本市政100年・女性活躍担当部長，水野女性活躍担当主幹，青木主査
欠席者	中川委員
会議の公開・非公開	公開
傍聴の数	0名
会議資料	・次第 ・資料1 誰もが社会で活躍するための関連要素 ・資料2 女性活躍に係る新組織設置に向けた各種意見聴取について ・資料3 新組織設置に向けた職員アンケート（結果）
会議内容	
1 開会	
部長 （挨拶）	本市の男女共同参画についてはこれまで総合政策部政策調整課の中に男女共同参画担当課長を置いて推進してきたが，今年の4月1日からは市制100年との兼務にはなるものの担当部長を置き，より推進する体制を取っている。 現在は来年4月に新しい組織の立ち上げに向け，庁内外から意見聴取しているところであり，男女共同参画・女性活躍の推進については，これまでの啓発事業に加え，女性相談や就労支援の充実やワークライフバランスの推進に取り組み，誰もが働きやすい環境を整えることが重要だと考えている。また，年齢や性別に関係なく，全ての人が生き生きと暮らせる取組も，これまで以上に加速させる必要があると感じている。そのためにも，新組織に対し皆様から忌憚のない意見を頂戴したい。
委員紹介・会議成立の報告	
事務局	・委員の交代について報告を行った。 ・条例施行規則第11条の規定により，委員の過半数が出席しているため，会議が成立していることを報告した。
2 議題	
(1) 女性活躍に係る新組織（部）の構想について	
会長	・本日の議題に入る。 ・まずは事務局に説明をお願いします。
事務局	女性を含めた多様性の必要性は言われて久しく，女性活躍に関する取組は国内外で

	<p>広がりを見せている。本市も、人材確保や多様化する市民ニーズに対応するため、女性活躍への効果ある取組は喫緊の課題であり、こうした課題に専門的に取り組む新たな組織の設置を検討しているところである。前回の会議では、この新組織について、男女共同参画を推進する上での影響力を保つため、飽くまで一つの独立した部として位置づけることが望ましいとの意見を頂いた。その後、男女共同参画や女性支援の関係団体や企業、大学生などからヒアリングを行うとともに、市役所が女性活躍推進の上で必須の取組となる「ワークライフバランスの実現」に先んじて取り組むため、職員を対象としたアンケートや座談会を開催し、職員ニーズや現状の課題の洗い出しを行った。当初「女性活躍推進室」として考えていた新組織であるが、これら庁内外からの意見を踏まえ、全ての人が社会に参画し、それぞれの意欲や能力に応じて活躍できるための環境整備に専門的に取り組む組織として位置づけることとした。</p> <p>・資料について説明した。</p>
会長	<p>事務局から新組織の構想について、説明があった。</p> <p>新組織の構想について御意見を頂く前に、今回、庁内外から様々な意見聴取を行ったとのことで、結果に対する感想や御意見など、皆さんそれぞれ発言をお願いする。</p>
委員	<p>そもそも「働く」こと的前提が雇用関係に限られていると感じた。働き方においても多様性は広がっており、起業する人やフリーランスで働く人も増えてきているが、考え方の土台の部分でそういうものは入らないのかなというのが正直な感想である。これから新しく女性活躍の組織を作ると言うことであれば、今後「働く」ということには個人で働いたり起業したりということも入ってくると思う。</p>
委員	<p>男女共同参画の話は古くから言われているにも関わらず進んでいないことが問題であり、計画自体はぜひ進めてもらえるといいが、その中で何をするかということはもっともっと練って欲しい。例えば、ワンストップの相談窓口は20年も前から言われていることだが、それが実現しないのはなぜなのかということを考えて、もし新しく取り組むのであれば、様々なシュミレーションを行い、何が問題でどうやるべきかをきちんと検証しながらでなければ進んで行かないと思う。また、これら全部をいっぺんにやろうとしても無理なことである。この会議は女性が多いが、違う会議に行けば殆どが男性であり、女性活躍に係る賞を受賞した時でさえも男性が代表として出てくる。そこに女性担当者がいないことが不自然であるのに、それでも女性活躍をしていると喜んでいる状況が、文字と形とセレモニーだけで終わっていると感じてしまう。また、家事を行うのは女性といったような女性に対する概念がありすぎて、女性の側もそのつもりでいてしまう。したがって、選択するかどうかは自由であるが、企業や組織は応援する制度をきちんと作っておかなければならないし、選択肢を用意しないというのは女性に我慢を強いることだと思うので、そういうものを変えていかなければならない。こういう会議だと形や文字はきちんと整っているが、その先をクリアしてほしいというのが強い願いである。</p>
委員	<p>説明を聞いてとても難しいと感じたのは、内容が多岐に渡るためどこから取り組むことがいいのかということである。子育て支援のようなものから始めていって、子</p>

	<p>どもを預けて安心して外に働きに行けるようにしたらいいのか、起業や就労ということから始めたらいいいのか。職場の環境整備が一番取り組まなければならないところだと思うが、代替えの問題などもあるため、休む側にとっても雇用する側にとっても難しいことだと思う。男女共同参画は昔から聞かれている言葉で、我々の現場でも小学校では教員は女性の方が多く、管理職についても少しずつは女性が増えてきている。ただ管理職がなかなか増えないのは、やはり子どもが熱を出すと母親に連絡が来てしまったりということがある。まずとっかかりをどこにするかということについて、何か切り口があるとそこから進めて行けると思うが、社会全体に関わることで非常に多岐に渡っているためいっぺんには変えられないと思う。窓口なのか条例整備なのか、そういうところから行くのが近道なのかなとも考える。</p>
委員	<p>職員アンケートの「業務内容の偏り」について、男女ではっきり分かれている結果を見ると、通常アンケートは意見が割れるものであるが、ここまで同様の意見に分かれるということは、職員の共通認識なのだと思うし、そういった認識になっていることについては放置できないことだと思う。他方で、仕事を振る上司の側からすると、休業の可能性を持っている女性に仕事が振りにくいと感じてしまうのかもしれない。その部分が女性管理職を増やす方向に行かない理由につながっている気がするので、仕事の割り振りを決める管理職の教育についても、今までと違った改革が必要だと感じる。</p>
委員	<p>社会においては、ちょっと話をしただけでも「女の子だから」、「女だから大学まで行かなくてもいい」という、まだまだそのような意識がありがっかりすることがある。男女いずれも「経済的な自立」、「家庭的な自立」、「社会的な自立」ができるといいと思っている。そのために男女共同参画の推進が必要なのであるが、どうしたら誰もが生き生きと生きられる社会を作ることができるのか、頑張らなければとは思いますが、話を聞いているとますます分からなくなってきた。</p>
委員	<p>男女共同参画について考える機会があったが、そこでも結局結論は出なかった。女性が活躍するための環境について、これをするにはこれが必要と考えていくと無限ループに陥り、結局どうしたらいいんだろうで終わってしまった。以前、男性の育休が取りにくいという課題についてアンケートをとったところ、とりづらい雰囲気取得できないという回答が多かった。そういう雰囲気になる理由としては、職場に男性が多くて子育てに対する理解が得られないということがあるのかなと思った。現在の制度の多くは議員等である男性が決めたものなので、それらの制度が使えないのであれば、女性ももっと議員になる必要があり、やはり女性の社会進出がもっと進む必要がある。ただ、そうするためには、それが可能となる環境整備の話になり、結局どこから始めて行けばいいのか分からない。</p>
委員	<p>農業の現場は男女共同参画が全く遅れており、非常に男性が優位で、女性が家庭のことをするのが当たり前である。自分はそういった中で生活してきたので、こういう会議に来るまでは、テレビなどで男女共同参画に係る報道を見聞きしても、それほど必要性を感じていなかった。ただ、このような場で普通に働いている方たちを見てい</p>

	<p>ると、やはり必要なことだと思う。男女共同参画の実現には、育ってきた環境は本当に重要である。自分の家庭では夫は全く何もせず、それを見て育ってきた子どもについても、親の世代よりは子育てに協力はしているが、何もしないことを当たり前と感じているため、子育てへの協力を当たり前というよりは、やってやるという気持ち強い。そういう考えは男性の中でもまだまだ根強く残っており、女性は家庭に入り、男性は外で稼ぐという考える人が多い。男女共同参画が進んでいかないのは、そういう考えの人たちが多過ぎることが原因だと思う。女性が、こうして欲しい、ああして欲しい、これは違うと言う場面ができれば、もうちょっと進めていけるのかと思う。</p>
委員	<p>中小企業の中では男女はほぼ互角の状態までなっているが、店主や経営者はほぼ男性が占めている。女性経営者も徐々に増えてきてはいるが、それでも男性が90%程度を占めている。明治・大正の時代は女性の地位が非常に低かったが、戦後は現在進行形の形で女性の立場は上昇しており、今は非常に良くなったと思う。先ほど、男女共同参画は20年前からさっぱり進んでいないとの発言があったが、男性の自分から見れば、女性の立場は非常に良くなったと感じる。職場での管理職問題の話題についても近年非常に活発になってきており、客観的に見て非常に良い状態になっていると感じるし、自然に進んできていると思う。ジェンダー指数についてもよく報道され、人々への意識付けもされてきており、状況はどんどんよくなってきているというのが自分の感想である。</p>
委員	<p>自分は民間企業に新卒で就職して以来、20年ほど一般事務職として勤めており、昇格・昇任というものからは縁遠いところで働いていたが、国の女性活躍の方針に則り、社内でもここ数年で女性管理職が急激に増えた。ただ内容は伴っていない気がしており、やらされている感を感じている。自分より先に幹部や管理職など役付になる女性の先輩もいたが、自分には無関係だと感じていたところ、ちょっとしたタイミングで事務の統括責任者になった。ただ、長らく事務員として努めており、責任者として仕事を任せたり、中の組織をいかに上手く動かすかということは全く習ってきておらず、やればできると放り出された感じであるため、今の立場に就いて1年少し経過したが、まだまだ悩みも尽きず、本当にこれで良かったのかなとも思っている。自分がロールモデルになることで、将来そういった仕事がしたい、そういった職責を担いたいと思ってもらえればと現在の仕事を引き受けたが、自身はまだトンネルの中にいる状態である。企業もまだそういう状態であるため、掲げている目標は大きく実現はなかなか大変だとは思いますが、自分のような女性事務員が一人でも多く管理職のような立場に「なりたい」と思えるような社会を作って行けたらいいのかなと思う。</p>
委員	<p>家庭内では男女による差は全くなかった。そのため、なぜ家事をしないのかと聞かれるが、なぜ女性がしなければならぬのかと感じる。また、大学進学についても、経済学部に行くと言うと、どうして看護や福祉学部じゃないの、女の子なら看護がいいと思うよと言われたが、なぜ福祉や看護に行く必要があるのかと思っていた。親からは、家事や育児はどうせ自分でやることになるのだから、できたとしても自らでき</p>

	<p>るとは言わない方がいいと言われ、社会はそういう世界なんだと思った。したがって、教育という面で、小中学校の時から男女共同参画に関する授業があるといいと思う。</p>
会長	<p>教育は本当に大きな問題である。家庭内での教育も大分変わってきたようだが、子どもの頃からステレオタイプのジェンダー感を親や社会で言われてきて、それを重荷に感じたり、その通りに生きなければならないと思っている学生がまだまだ多いと感じる。変わったところも大きいですが、まだのところもあると日々感じる。また、管理職や政治家についてもなりたい女性が少ないという議論はよくあるが、それについては、現状のままではなりたくないしできないという、受入体制がない中では難しいということが含まれていると思う。従って、根底から変えるということと、具体的な数値基準を設けてクリアしていくということを同時に行う必要があるなど、色々なことを考えさせられた。形が整ってきたことで、逆にようやく多くの女性がガラスの天井などの存在を感じる状況になってきたのかなと思う。仕事としては色々任せられながらも昇進に対しては厳しいなどの状況が、逆に見えてくるようになってきた気がする。旭川市でも頑張っていて取り組んでこられていて、多くの団体もあるので、何とか突破口を見つけやってみようかと考える。</p> <p>今回、色々なヒアリングやアンケートを行っているが、今後更に深めたり他から聞いたりとかは予定しているのだから。</p>
事務局	<p>今回に関しては一旦は一通り聞いたので終わりになるが、例えば職員アンケートや団体からのヒアリングなどについては、今後も施策を進めていく上で、状況を把握しながら適宜継続して取り組んでいきたい。</p>
会長	<p>他に御意見等があれば発言をお願いします。 なければ、事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>本会議は年2回の開催を予定している。次回の開催時期は未定であるが、本日頂いた意見を参考にさせていただきながら庁内での検討をさらに進め、より具体的な内容を盛り込んだ構想案を作成し、それをもって再度、皆様から御意見等を頂きたいと考えている。</p>
3 閉会	
会長	<p>本日の会議は以上で終了とする。</p>